

春季講演会

先進都市だった別府

外山健一

平成二十七年三月八日（日）、野口ふれあいセンターで行われた別府史談会の春季講演会において発表の「先進都市だった別府」以下は、その時の内容を加筆・修正したものである。

はじめに

本来ならば「先進都市の別府」と題して紹介したいところであるが「先進都市だった」と過去形になっている事を誠に残念に思う。

日本国内では、御一新により帝を京の都から江戸に移したことから東の京、つまり東京と改称された。

首都東京は東京市区改正条例に基づき、道路は基盤の目のように整備され近代的都市へと変貌を遂げた。

国民は、あまりにも急速に西洋化を進める時の政府を「散切り頭を叩いて見れば文明開化の音がする」と揶揄した。

一方、豊後横灘（別府）は廃藩置県により日田県に属することになった。しかし僅か四年後の明治四年十一月十四日、日田県から大分県に改編された。

別府は明治から昭和初期にかけて急速な発展を遂げた。就中、明治四年に別府港波止場の完成は関西と別府を直結し、これが別府発展の起爆剤となったと言っても過言ではない。別府は官民一体となって、他都市に先駆けて先進的な諸施設の建設を明治以降積極的に推し進めて来たが、その事例を時系列で紹介する。

●明治元年（一八六八）四月二五日

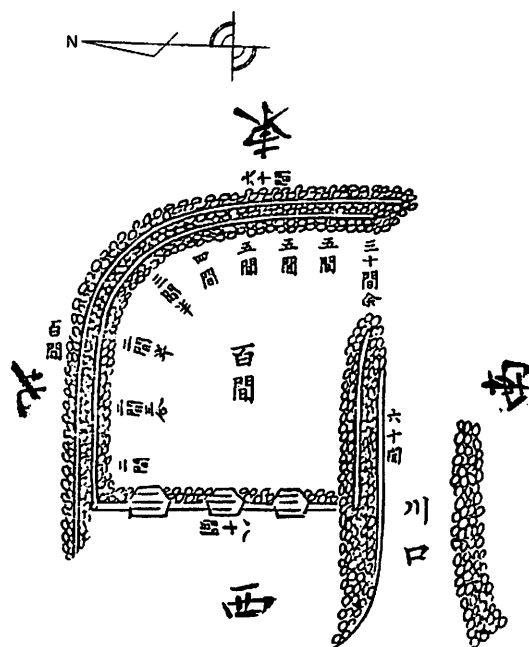
日田県を設置。別府、浜脇、朝見、田野口の四村は日田県に属する。

同年五月二五日、松方正義（三三歳）日田県県令に任じられ着任する。

●明治四年（一八七二）五月三〇日

別府港波止場完成。九州では長崎、博多港に次ぐ三番目の港である。

波止場の設計は佐伯の柴田惣左衛門、工事には佐伯福良浦の嘉四郎、佐賀関の与作等がその任に携わる。工事費二万両。



明治4年完成の別府港波止場計画図

この港の完成により海上交通が盛んになる。

●明治四年（一八七二）十一月四日

改置府県により別府は日田県から大分県に改編される。

●明治五年（一八七二）四月

安部万次郎、北町（現別府駅東口前広場）に寺子屋（私塾）を開き、学童三〇人を収容し読み書きを教える。明治七年、学制頒布で寺子屋を閉鎖。その後、明治七年二月一日別府浜脇岡村共立別府学校（現別府中央小学校の前身）開校する。

●明治六年（一八七三）五月三〇日

大阪開商社の西洋型木造蒸気船益丸（一八トン）大阪へ別府を結んだ観光ルート第一船が入港する。

●明治一〇年（一八七七）六月

文久三年（一八六三）六月、中石垣矢城谷の矢田梅洞（希一）、私塾対岳楼を開設。長南梁（三州の父）を招き子弟を教授する。明治一〇年西南の役に際し塾を閉じる。

●明治一三年（一八八〇）

「山城丸」（三〇〇トン）別府へ大阪間運行を開始する。

●明治一七年（一八八四）五月

大阪商船株式会社を設立、別府に代理店を置き、乗客輸送と併せて貨物の取り扱いを始める。

●明治一八年（一八八五）五月一日

宇和島運輸株式会社が設立され、宇和島へ別府間に初めて木造船宇和島丸（二〇〇トン）を就航、以来海上交通が主流となる。

●明治二八年（一八九五）三月

野口原の村有地に私設競馬場をつくり、毎年無料で競馬を開催し入場客を楽しませる。

●明治三二年（一八九九）六月

朝見病院の鳥潟恒吉博士の招きで東京帝国大学教授ドイツのエルウィン・フォン・ベルツ博士が温泉調査のため来別。別府を東洋のナポリと絶賛する。

●明治三十三年（一九〇〇）三月

豊後電気鉄道株式会社、別府町浜町に日本で二番目の火力発電所が稼動する。火力発電所第一号は東京市日本橋茅場町に東京電灯（株）が明治二〇年一月二日に稼動する。

●明治三十三年（一九〇〇）五月一〇日

豊州電気鉄道（株）によって別府と大分間に西日本で最初の電車が走る。

①京都市京都

明治二八年二月 一日 開通

②愛知県名古屋

明治三一年五月 六日 開通

③神奈川県大府

明治三二年一月二日 開通

大府電気鉄道（株）を同年四月二五日京浜電気鉄道（株）に社名変更した。

④神奈川県小田原

明治三十三年三月二日 開通

⑤大分県別府大分

明治三十三年五月一〇日 開通

その後、大分と別府間を走る電車の動力源として豊後電気鉄道株式会社によって大分県豊後大野市大野町矢田に沈

墮ダムを建設、水力発電の沈墮発電所が明治四二年（一九〇九）

に竣工。竣工時には

五〇〇kwの発電機二台を備えた。

●明治三五年（一九〇二）

二月二六日

別府町浜脇町学校組合立工業徒弟学校開校

する。大分県立大分工業高等学校の前身。旧南小学校前松原町住吉温泉付近一帯。

大正四年（一九一五）

一二月一日大分市勢家に移転した。

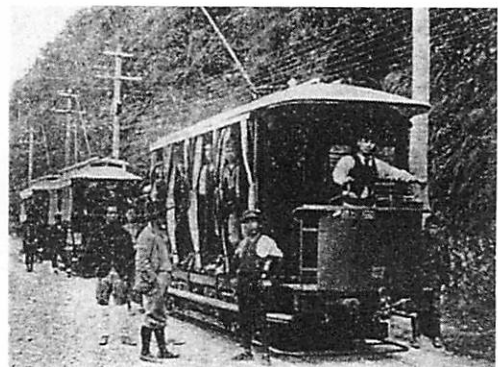
●明治三五年（一九〇二）

五月一〇日

大分県は明治三十三年



明治35年の別府町浜脇町学校組合立工業徒弟学校（現、別府市松原町）



明治33年開通の別大電車
日本で5番目の開通

に豊州電気鉄道株式会社に電灯点火許可。別府町に大分県で最初の電灯がともる。

●明治三十八年（一九〇五）

八月五日

大分県立農学校、臼杵から移転、別府北石垣照波園に開校する。大分県立三重総合高等学校の前身。

大正七年（一九一八）六

月大分県三重町に移転した。

●明治三十九年（一九〇六）

四月一日

別府町と浜脇町が対等合併。

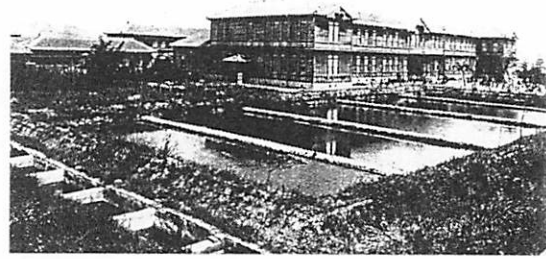
人口六、七九四人 世帯数一、五〇七戸となる。（石垣村、

亀川町、朝日村を含まず）

●明治四十二年（一九〇九）二月一六日

別府町に初めて電話開通する。

我が国の電話は、明治三十二年一月一日東京と熱海間に架設されたのが最初である。



明治38年の大分県立農学校（現、別府市照波園町）

●明治四十二年（一九〇九）四月八日

別府青物乾物市場株式会社設立。

大分県下初の県会による認可市場であった。

●明治四十二年（一九〇九）五月二一日

別浜魚市株式会社設立。

通称べっぴん市場と称された。

●明治四十二年（一九〇九）六月

オーストリア軍艦カイゼリン・エリーザベト号寄港する。
外国観光客団体第一号。

●明治四十四年二月一一日

豊州瓦斯株式会社を設立、大分市勢家に本社を置く。大正一四年九月二九日別府瓦斯株式会社を設立、昭和四六年二月二〇日、現在の大分瓦斯株式会社に社名を変更、現在に至る。

日本初の瓦斯事業は、明治五年一〇月三一日、横浜瓦斯灯会社によって瓦斯供給が行われた。

明治二〇年代には、横浜、東京、神戸の三都市。

明治三〇年代には、大阪、長崎、博多、名古屋、金沢の

五都市。

明治四〇年代には、京都、福島、仙台、呉、高松、横須

賀などと共に大分、別府など全国の主要都市で瓦斯供給が行われた。

●明治四四年（一九二一）七月一六日

現在のJRR日豊本線、亀川停車場と別府停車場が完成し鉄道が開通する。

●明治四四年（一九二一）九月

市区改正と耕地整理事業に着手。

南は朝見川から北は境川までを六工区分けて年次事業を進める。

昭和三年（一九二八）八月市区改正と耕地整理事業が完成し道路は基盤の目のように整備され近代都市へと生まれ変わった。

●明治四四年（一九二一）十一月一日

現在のJRR日豊本線、浜脇停車場が完成。同時に大分停車場も完成し別府〜大分間を別大電車と蒸気機関車が併走することとなった。

浜脇停車場は浜脇駅となり、昭和九年四月一五日から東別府駅に改称。

駅舎は当時のままで、正に時間が止まった駅である。平成一五年二月五日市指定有形文化財に指定されている。

●明治四四年（一九二一）一二月

大阪商船は鉄道の開通に対抗し、ドイツの鋼鉄船（一、〇〇〇トン）を別府〜阪神航路に「くれない丸」を就航した。

●大正二年（一九一三）

大分県下初の映画館「豊玉館」がオープンした。
大正三年一〇月五日「松栄館」がオープンする。

大正八年一二月「世界館」がオープンする。

一説では、県下初の映画上映は、明治四〇年一〇月建築の芝居小屋「松涛館」が芝居兼映画館として活用していた。

●大正六年（一九一七）四月一日

別府町に近代的な上水施設、朝見浄水場が完成する。全国で三七番目の快挙であった。

当時の別府町には土木技師（上水道）専門職員が不在のため大阪市水道局の石崎貞次郎技師を招聘した。

尚、当時の五施設は平成九年九月三日国登録有形文化財に登録されている。

●大正八年（一九一九）八月四日

遊園地ツルミ園本館竣工開業する。

大正一二年小劇場、大正一四年に大劇場が竣工した。

州の石炭王である佐藤慶太郎が一六万円を投じて野口雄三郎のために建てたものである。

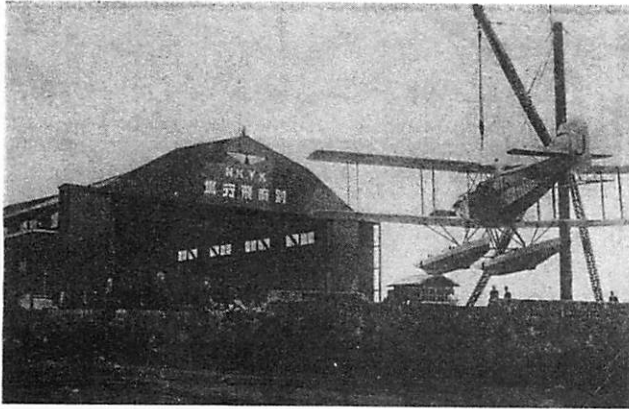
時が過ぎて野口雄三郎は一六万円を佐藤の下へ返しに行くが、佐藤は「もはやこの金は僕のものではない」と言って受け取らなかつた。

結局この一六万円は慈善事業に使うこととなった。建築設計者は、台湾総督府を設計した長野宇平次である。建物は平成一六年六月九日に国登録有形文化財に登録されている。

●大正一二年
(一九二二) 七月九日

日本航空輸送株式会社が大坂く別府間瀬戸内海遊覧飛行の試験飛行を水上飛行艇で開始する。

別府の飛行場は、現別府中央小学校の



別府市的ヶ浜の「別府飛行場」

場所(弓ヶ浜)であった。

昭和二年七月二日、日本航空株式会社が大阪く別府間を大型飛行艇一五人乗り(ドルニエール式ロールスロイス)処女飛行を行う。

昭和一〇年五月四日、日本航空輸送研究所が大坂く別府間定期新航路機の第一回の就航をはたした。

三人乗り(フォックス・モス機)弓ヶ浜に着水した。

昭和一一年一月一日、日本航空研究所が大坂く別府間に一九人乗り旅客飛行艇「キリン号」(サザンプトン機)初就航をはたす。

●大正一三年(一九二四)一月二六日

京都帝国大学理学部附属物理学研究所開設。後に地球物理学研究所と改める。

野口原の敷地は別府町が無償提供した。

●大正一三年(一九二四)四月一日

別府市制施行(別府市誕生)。

同年九月二六日初代別府市長に神澤又市郎就任する。

●大正一三年(一九二四)六月一日

九州で最初の喫茶店、スズランが別府流川通四丁目オープンした。



九州初の喫茶店「スズラン」(大正13年)
日本髪的女性は経営者武田三代治の妻・春

経営者は元別府町長武田綾太郎の長男、武田三代治。

三代治は慶応大学在学中、東京銀座の喫茶店ライオンでクラシック音楽を聴きながら父綾太郎の経営する日用商会の一部を借り、別府で喫茶店開業を思いついた。スズランの二階はオリンピックダンスホールも経営した。

関西汽船の待ち合客や文化人の憩いの場として繁盛した。

●大正一三年(一九二四)十一月二五日

フランスの詩人、ポール・ルイ・シャルル・クロードル
来別する。

大正一五年九月二四日再訪する。

●大正一四年(一九二五)十一月一三日

日本で最初の地熱発電に成功した。

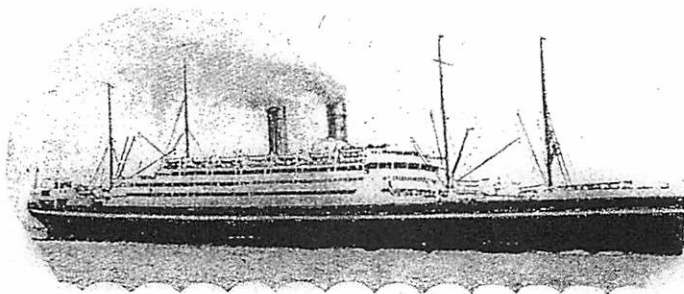
東京電灯研究所によって、一ニKWの発電が行われる。世界的にはイタリア、アメリカに次ぐ世界で三番目の快挙である。

発電所は「地熱利用第一発電所」と名付けられた。別府市鉄輪の坊主地獄近くの林の中で「地熱発電発祥の地」を別府史談会員の川田康氏によって発見された。

●大正一五年(一九二六)

二月二一日

世界周遊大型船カナダ・エンプレス・オブ・スコットランド号(三五、〇〇〇トン)初めに別府に寄港する。日本の寄港地は、長崎、別府、神戸、横浜の四都市のみ



世界周遊船エンプレス・オブ・スコットランド号
大正15年2月21日別府に寄港。
世界周遊船寄港第1号

である。

以後昭和一二二年四月一三日まで大型客船は二〇回別府に寄港した。

●昭和二年（一九二七）

五月二十八日

大阪毎日新聞、日本新八景を全国に募る。

温泉の部で別府温泉が第一位に当選する。

●昭和三年（一九二八）一月二五日

日本で初めての

少女車掌（バスガ

イド）による美文

調の説明で地獄め

ぐりが行われる。

作詞、不老暢人

（薬師寺知臈）。

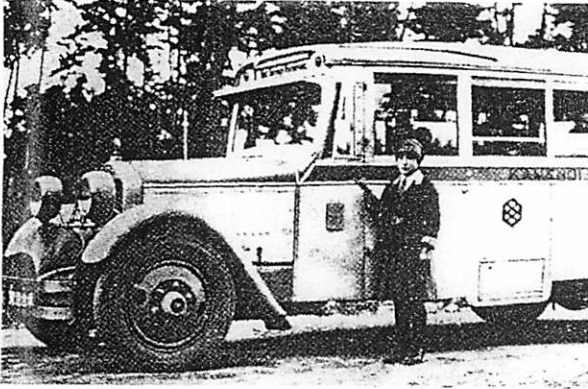
女性バスガイド

の月給は当時とし

ては高額の月額

二〇円食事付きで

あった。



昭和3年1月 亀の井自動車株式会社少女車掌による地獄めぐり遊覧バスを運行する。

亀の井バス（自動車）のほか、温研バス、伊藤バス、泉都自動車も地獄めぐりを行った。

亀の井バスの乗車人員（地獄めぐり）

昭和三年 一七九、九五一人

昭和四年 一二六、七九一人

昭和五年 一一四、五二三人

昭和六年 一〇五、〇七三人

昭和七年 七〇、二九七人（八月まで）

●昭和三年（一九二八）三月二八日

別府市野口に日本一の大仏開眼する。



野口の大仏
（昭和3年3月28日開眼）

鉄輪コンクリート造り、高さ約二四メートル。

施主岡本栄信、仏師入江為義（博多の人形師）である。

平成元年四月二五日閉眼

平成元年八月三日解体

現在、現地に大仏の一〇分の一の雛形が鎮座している。

●昭和三年（一九二八）三月二十九日

別府市公会堂完成三月二十八日、落成式三月二十九日開催。

設計者通信省技師吉田鉄郎。

ストックホルム市庁舎をモデルとしたドイツ近世復興

式。総事業費約四三万円

平成六年一月二六日市指定有形文化財に指定される。

別府市中央公民館は、現在約一二億円の費用をかけて建

築当時の玄関階段部分など復元工事を行っており平成二八

年四月完成をめざしている。

●昭和三年（一九二八）四月一日

市制施行五周年を記念し「中外産業博覧会」を開催する。

開催期間五〇日で八一八、九九六人が訪れる。

第一会場別府公園、第二会場浜脇海岸で開催された。

●昭和三年（一九二八）五月一〇日

浜脇高等温泉鉄筋コンクリート造り二階建完成する。

昭和二年七月二四日起工、ドイツ近世復興式

設計者池田三比古（市建築技師）

総工事費約一、二三、〇〇〇円



浜脇高等温泉（昭和三年六月落成）

●昭和三年（一九二八）一二月一日

別府で初めての本格的西洋料理店流川通三丁目「ピリ

ケン」がオープンする。

●昭和四年（一九二九）九月三日

別府ケーブルカー開業、日本で五番目。

①奈良県生駒鋼索鉄道 大正七年八月二九日開業

②神奈川県小田原電気鉄道 大正一〇年一月一日開業

③奈良県信貴生駒電鉄 大正一一年五月一六日開業

④兵庫県神戸摩耶鋼索鉄道 大正一四年一月六日開業

明治三六年から別府金山として採掘した跡地を遊園地として活用する。

社長 木村久太郎。ケーブルカーの発案者は山崎権市である。

●昭和四年（一九二九）九月三日

大分県下一のモダン校舎南小学校鉄筋コンクリート造り三階建完成する。

浄化設備を完備した校舎であった。

設計者池田三比古（別府市建築技師 退職後、市議会議員、別府市文化財調査員なども務めた。）。

総工事費約六五、〇〇〇円

●昭和六年（一九三一）一〇月三十一日

九州帝国大学温泉治療学研究所開設

昭和七年一月一八日より患者の治療を行う。

●昭和八年（一九三三）七月



昭和12年6月2日ヘレンケラー女史来別。右がヘレンケラー女史、左が秘書のトムソン。海地獄を訪れる。

県下初のキャンプ村を志高湖畔に設置する。

●昭和一〇年（一九三五）九月四日

別府市、亀川町、石垣村、朝日村が合併する。合併後九月八日、別府市長永野清、過労で急逝する。任期一〇日間の市長だった。

●昭和一二年（一九三七）三月二五年

別府国際温泉観光大博覧会を開催する。

三月二五日から五月一三日までの約二ヶ月間。

●昭和一二年（一九三七）六月二日

ヘレンケラー女史がトムソン秘書帯同来別する。亀の井

ホテルに投宿。

●昭和十三年（一九三八）六月

竹瓦温泉をご殿造りに改築する。

設計者村上利作（別府市建築技師）。正面玄関の看板の文字は小野康別府市長の揮毫である。

おわりに

明治から昭和初期にかけて別府発展の歴史を掻い摘まんで紹介したが、中には目を瞠るものがある。現在の別府と対比すると躍動感に溢れる繁栄の姿が目には浮かんで来る。

別府は温泉に加えて宿泊保養施設、医療施設、さらに怡楽施設が充実していたことから、明治二十七年、二十八年の日清戦争、明治三十七年、三十八年の日露戦争、昭和一二年の支那事変で多くの傷病兵の療養の地としても栄えた。

戦後、市民は食糧難に喘いでいた時代に、官選による別府市長脇鐵一が就任した。

彼は、別府百年の大計である「別府国際泉都計画」を樹立した。

この壮大な計画を一地方のみで実行するのは不可能と考えた。そこで国家的な事業として行うため、憲法第九五条に基づ

く、観光都市では初めての議員立法による特別法「別府国際観光温泉文化都市建設法」を昭和二十五年七月一八日制定した。爾来今日まで本法による街づくりが推し進められてきた。観光都市の街づくりには風格、情緒、センスが求められる。街づくりは、何もしなければ「じわじわ」と悪くなる。砦とやっつけていけば「じわじわ」と良くなって来る。

参考文献

- 「別府市誌」 別府市役所刊 昭和六〇年三月八日
- 「別府文化史年鑑」 志多摩一夫著 昭和四八年六月三〇日
- 「湯山の里風土記」 恒松栖著 平成二五年九月二〇日
- 「別府近代の宝庫」 大分みらい信用金庫 平成二四年四月一二日
- 「亀の井ニュース」 亀の井ホテル 昭和一四年
- 「閉鎖法人登記簿」 大分地方方法務局
- 「豊州新報」
- 「大分新聞」
- 「今日新聞」 岩尾 護 昭和三年一三三年